学校づくりの記Ⅱ

校長通信

発行日１２月１４日

No.３３

ちらっと見える子どもの素顔

毎日、2～3回は五年生のを中心に教室へ入っています。つっぱっている五年女子数名とも関わることが増えました。

覗くと、たいてい授業と違うことをしています。

社会の工業地帯の学習の時間。やっぱり、後ろの女の子三人は釣り糸をいじくって遊んでいます。

教科書、出しなさい。」

忘れた。」

隣に見せてもらえ。これはいらん。しもとけ。」

うるさいな。近寄らんといて」

何ゆうてんのや。やれ。」

などと、しばらくやりとりがあって、しぶしぶ学習の準備をします。

今、何をするのか聞いてたか?」

聞いてへん。」

『こういわったんや。プリントの一番読んでみ」

めんどくさあ」

あほか、中学校の勉強なんかこんなんばっかりやぞ。これぐらいできんでどうする。」

とやっているうちに、その気になってやり始めます。

琦玉県どこや分かるか?」

『ここやろ。」

静岡も愛知も分かるで。」

と動き出します。

兵庫県はどこ?」

と聞いてきたりもします。エンジンがかかると結構さっとやってしまいます。後は、離れていてもちゃんと仕上げました。自分らで近畿地方の県名を言い合ったりもしていました。

音楽の時間。K先生に頼まれて5の2の1／3の子の笛のテストをしました。例のメンバーの二人もいました。やらずに遊ぶかな?と思ってみていましたがちゃんと練習しています。

終わりの方にやってきて

『こんでいいか、聞いて」

と言ってK子が吹きました。メロディは確かで、タンギングもきちんとできています。

うーん、すごい。完璧やな。」

と合格シールを渡し、こんどはY子の番です。Y子はメロディはそこそこ吹けているのですがタンギングができていません。

おしいなあ。タンギングはこうやるんや。」

と教えるのですが、うまく吹けません。

K子、おまえ上手やで、教えたってくれ。」

と言ってK子に任せ、他の子のテストを続けました。その間ちゃんとK子がY子に教えています。

しばらく練習してもう一度Y子がテストを受けにきました。

だいぶようなった。その努力で合格。あと、また練習しいや。」

と言って終わりました。その間、いつものはすかいに見るような目つきはありませんでした。

直接関わっていると、ちらり、ちらりその子の素顔の部分も見えてきます。そんな時

ああ、この子らもけっこうかわいいやん。」

と、思えたりします。そして、ちょっとその子たちとの距離も縮まるような気がします。

五年の立て直しで、何がポイントかなと話し合っているとき、F先生が

やっぱり子どもとの信頼関係』やと思う。」

と言われました。まったく同感です。

でも、子どもとの信頼関係はどうやって築いていったらいいのでしょうか?それぞれ先生によってやり方があるでしょう。私はここに書いたように、一人ひとりと学習の具体をとおして関わる中で、『この子もかわいいな。』と思えたり、一緒に喜び合える事実を積み重ねることでやってきました。

でも、そう思ったところで何も変わりません。子育て、家庭生活のあり方について強く保護者へ訴えていったとしても、劇的な改善は望めそうもありません。

結局、学校でできることをレベルアップするしかないのだと最後は思い直しました。協議会長の吉田先生が

荒れた蒲生中時代でも、一流の合唱団の公演にはシーンと聴き入っていた。本物の力はすごい」と言われました。

子どもの心を打つ教育の中身をどう創るか。北小教育の未来はそこにかかっています。

根本は家庭の問題ではあるけれど……

9日（水）、地域教育協議会があり、そこで北小の現状をF先生から報告してもらいました。

同席していたどんぐりの家のY先生が、その話を聞いて、

ああ、やっぱりと思いました。今の五年生の子たちは、どんぐりで預かっていたときから、いろいろ問題がありました。」

とそのころのエピソードを語ってくださいました。

気に入らない友だちの下敷きをカッターで切ったり、金魚の水槽に洗剤を入れてみたり……。

保護者の姿にも驚いたとのこと。保護者会を開いても半分も集まらない、子どもを7時まで預けっぱなし、奉仕作業の休憩時に道路にあぐらをかいて座る……等。

そういう話を聞いていると、ああ、五年生が落ち着かないのは結局は家庭の問題だよなあ」

と妙にほっとした気持ちになってしまいます。